

「応用哲学・分析アジア哲学プログラム参加報告書」

京都大学文学部4年 山森真衣子

① 学習成果

今回の派遣によって、様々なことに対しての意欲、姿勢が変化した。留学、大学での学習、国際理解の三点から述べる。

まず、留学に対しての意欲、姿勢について述べる。今回の派遣によって、色々な研究、勉強を行っている人がいるということを実感した。師事したい先生がいるという点だけでなく、色々な人から刺激を受け見聞を広めるという点からも、留学は有意義であると痛切に感じられた。

次に、大学での学習について述べる。今回、様々な問題についての様々なアプローチを見て、自分の学習に取り入れたり応用させたりしたいと感じた。ワークショップで行われた様々な発表の中でも、私が最も影響を受けたものは、自分と似た関心を持つ学生による、挑戦的で興味深い発表である。彼の発表は、本人も言っていたことであるが、それ自体は多くの、また大きな欠点や欠陥が見られる。しかしながら、その挑戦的な姿勢に大変衝撃を受けた。自分も、より挑戦的に自分の興味に取り組んでいこうと考えさせられた。同時に、それを可能にするために、自分の知識や能力を向上させていかなければならないことも痛感させられた。

最後に、国際理解について述べる。日本と台湾、日本と外国ということ自分で恐れていたほどの差異は、少なくとも私には、見受けられなかった。しかし、決して無視できない程度には差異が存在すると感じられた。今回多くの台湾人やそれ以外の国の人々と関わったが、これからも彼らと友好を深めていきたい。そしてそのために、上述した差異をより理解し受け入れていきたいと感じた。また、このことを行うために、より一層の語学力をつけていきたい。

② 海外での経験

これについては、③プログラム内容と同じ内容となるので割愛する。

③ プログラム内容

今回、政治大学、陽明大学、清華大学の三大学で活動した。

政治大学では、アジア哲学、とくに仏教を中心とするワークショップが開かれた。色々な人々の発表を聞き、質問などを行った。

陽明大学では、応用哲学についてのワークショップが行われた。陽明大学が医学系の大学ということもあり、医学的、数学的な発表が多く行われた。陽明大学でのワークショップで、上述した私が最も衝撃を受けた発表を聞いた。なお、その後この発表者と、彼の発表内容について話をしている。

清華大学では、広範囲にわたる分野についてのワークショップが行われた。また、清華大学の日本語授業に授業者として参加した。日本語授業の生徒の方々とは特に友好を深めることができた。

④ 進路への影響

今後も論理学を中心に勉強を進めていきたいという思いは変わらないが、その思いが一層強くなった。また、学習に対してよりアグレッシブに、より創造的にあるうという思いを持った。派遣前にも興味を抱いていた分析アジア哲学については、その魅力を再実感したと同時に、その難しさを痛感せずにはいられなかった。この分野を真っ当に勉強することができるようになるために、基礎的能力の伸長の必要性を感じた。